

異業種交流プロジェクトセミナー パネルディスカッション「日本における、デザインビジネスの行方」



カナヤツトム氏

■第二部 パネルディスカッション「日本における、デザインビジネスの行方」

パネラー：カナヤツトム氏（CEMENT PRODUCE DESIGN）

大高 亨氏（京都造形芸術大学）

尾原久永氏（大阪繊維リソースセンター）

コーディネーター：矢澤寿々子氏（ココプランニング）



パネラー
手前から尾原氏、カナヤ氏、
大高氏、矢澤氏、岡本氏

- ・ ビジネスの現場ではプレゼンテーション（デザインをディレクション、プロデュース）能力が足りないのではないか。—カナヤ—
- ・ 教育者にデザインプロデューサー、ディレクター経験者が少なく、ビジネス教育が難しいのが現実である。—大高—
- ・ 海外での日本の技術評価は高いが、コスト面での対応が不可能な現状では、売り方を変える必要があるのではないか。—カナヤ—
- ・ 地場産業の現場ではモノを作ってもプレゼンテーションが出来ない為、支援活動中である。また、産地のモチベーションを上げるキッカケを作り、次世代に引継ぐ努力をしているところである。—尾原—
- ・ デザインとは経営資源であり、CIの活用が必要である。—カナヤ—
- ・ 経営者は過去のセオリーを変えたがらず変化することに躊躇するが、大胆に変化する必要があるのでは・・・—尾原—



会場風景

パネルディスカッションの締めとしてTDA理事の岡本氏から「モノ、金に加えてデザインは重要な経営資源であり、その為のシステム作りやプレゼンテーション能力の向上が益々必要であり、今回のような機会を活用して我々自身が勉強していくことが大事である。」との言葉を頂き、終了しました。

■交流パーティー

講演会場近くのレストラン&バーに会場を移し、ゲストのカナヤ氏を囲みながら、活気ある話に時間を忘れる程、盛り上がったパーティーとなりました。

（木谷 雄二郎）

